

主査就任にあたって



片桐 孝洋

AT 研究会主査／東京大学情報基盤センター准教授

AT 研究会は 2003 年発足以来、現在まで、会員による当研究会での研究発表、学会におけるセッションの企画、当研究会外の学会における研究発表、および自動チューニング (AT) を実現するソフトウェアの研究開発が活発になされています。また従来は、密行列などの数値計算に対する AT 適用が中心でしたが、近年は、それ以外の適用事例が増えてきています。つまり、AT 適用の対象や分野自体が広がりつつあります。

本年度からの AT 研究会の運営に当たりまして、以下の観点で進めていきたいと思っております。

まず、従来から行われている AT 研究を通じた研究交流の促進を続けていこうと思っております。AT 研究会主催の企画と他学会の企画の提案を通じ、国内外の研究者との交流促進を進めます。新しい企画として、国内における AT 分野の裾野を広げるための講習会やセミナーなども行っていきたいと思っております。

次に、今まで会員が行ってきた AT 研究の成果物として、有用なソフトウェア資産の蓄積があると認識しています。これらの AT 研究の成果としてのソフトウェア (AT ソフトウェア) を普及することは、社会貢献として重要であると思っております。そのため、ソフトウェア普及活動を積極的に行い、AT ソフトウェアがいろいろな局面で利用されていくようにしていきたいと思っております。

近年、ビッグデータの取り扱い、ビッグデータからの知識抽出と活用のための機械学習 (深層学習) の研究やソフトウェア開発が注目されています。元来、機械学習と AT との親和性は高いと思っております。この新分野で AT 研究を推進するための企画や枠組みについても検討していきたいと思っております。

会員の皆様の協力なしには、これらの事業の遂行はできません。また、より魅力ある AT 研究会にするためには、特に若手会員の皆様による企画提案が必要であると考えております。そのため、若手会員の皆様には、積極的な企画提案をお願いいたします。

今後とも AT 研究会の活動に関して、会員の皆様、および、AT 研究にご興味がある方々のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2015 年 5 月 17 日